

宇多津町議会議長 殿

教育委員会の事務の管理 及び執行の状況の点検 及び評価に関する報告書

(令和2年度対象)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定
に基づき報告書を提出いたします。

宇多津町教育委員会

はじめに

I 目的及び制度の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目標に、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることになっています。

II 点検・評価の対象

「令和2年度宇多津町教育方針」に基づき、各項目ごとに目指す姿として「施策の目標」との関連で、令和2年度の進捗状況について、点検・評価の対象としました。

III 点検・評価の方法

令和2年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、「施策の目標」に掲げている項目の点検・評価表を掲載しています。また、点検・評価の客観性を確保するために、「宇多津町教育評価委員会」を開催し、(令和3年11月22日)地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に規定する学識経験を有する次の方々から、ご意見をいただきました。

氏 名	所 属 等
会 沢 勲	四国学院大学教授
佐 藤 隆之	教職経験者 (元中学校教頭)
高 儀 雅俊	香川短期大学教授

参考資料 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

目 次

1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進

(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進		
① 学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上	1	
② 英語教育・外国語活動の充実	2	
③ ICTを活用した情報教育の推進	3	
④ 特別支援教育の推進		
・ 特別支援教育	4	
・ 教育相談	5	
・ 私の成長シート	6	
(2) 教職員の資質・能力の向上		
① 改訂学習指導要領の趣旨に沿った授業改善		
② 町連携協議会の充実	③ ステージ別研修の充実	7
(3) 安心・安全な学校づくり		
① 実践的な防災教育の実施と防災力の向上	8	
② 交通安全教育の充実	9	
③ 不登校・いじめ等問題行動の未然防止及び指導体制の充実	10	
④ 学校情報・地域情報配信の充実	11	
(4) 健康教育の推進		
① 安心・安全な学校給食の実施	12	
② 家庭と連携した食育の推進並びに生活習慣病の予防促進	13	
③ 基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動の促進	14	
(5) 教育施設的环境整備		
① 学校諸施設の整備・充実	15	
② ICT化の推進	16	

2. 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり

(1) 地域と学校が連携・協働した地域づくりの推進	
① 協働活動の充実	17
② 体験活動・交流活動の充実	18
③ 放課後等児童の居場所の充実	19
(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成	
① 地域活動への積極的な参加促進	20
② 異年齢交流活動事業の推進	21

(3)	家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり	
①	家庭教育支援体制づくり並びに学習機会の拡充	
②	家庭教育力の向上	22
③	「家庭の日」(毎週第3日曜日)の推進	23
(4)	人権尊重の知識を養う人権・同和教育の推進	
①	研修機会の充実	24
②	広報・啓発活動の充実	25
(5)	宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進	
①	地域の伝統文化を学習する機会の充実	
	・ 成人式	26
	・ 宇多津検定	27
(6)	いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実	
①	子どもを守るネットワークの整備	
	・ いじめ防止等対策委員会	28
	・ サポートチーム連携協議会	29
	・ 宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会	30
	・ 少年育成センター業務	31

3 活力ある地域コミュニティの形成

(1)	文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進	
①	研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援	
	・ 令和相聞歌	32
	・ 文化財保護	33
(2)	地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実	
①	いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供	
	・ 女性セミナー	34
	・ 宇多津大学	35
②	住民が学んだ成果を住民のために活かす仕組みづくり「知の循環」	36
(3)	スポーツ・レクリエーション活動の充実	
①	指導者養成並びに活動支援体制づくり	
	・ 大松杯バレーボール大会	37
	・ 激励制度	38
②	スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実	
	・ スポーツの推進	39
	・ 子どもロードレース	40

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	① 学習習慣の確立と学ぶ意欲の向上

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

新学習指導要領による本格的な取り組みが始まり、本町においても第三次宇多津町教育連携5か年計画の4年目を迎え、「対話を通して『誇り・敬い・創意』を育む教育」を念頭に、全国や県の学力・学習状況調査の結果を踏まえつつ、授業改善を目指しての研究実践に取り組んだ。

また、家庭や地域においても、学校・家庭・地域が一体となって子ども達を育てていこうとする意識が高まるよう、教育委員会や各校園所のさまざまな行事や会合、広報紙などを通じて啓発活動に取り組んだ。

1 本年度の重点課題

宇多津小： 「学校は楽しい」を合言葉に、全職員の共通理解のもとに「さめき学びの三訓」に取り組んだ。またT.Tや教科専科の授業を活用して学力の定着に取り組んだ。

宇多津北小： すべての子どもたちが参加できる授業を目指したいという考えから現職教育の研究テーマを「一人一人が活躍し、ともに高め合い、学ぶ楽しさを味わえる授業を目指して」と設定し、実践に取り組んだ。

若年教員の授業力向上に向けて、指導技術を得るためのベテラン教員の公開授業などの研修を行った。

宇多津中： タブレット端末を活用したよりよい授業実践を目指し、プレゼンテーション、調べ学習、瞬時の情報共有、学習過程の記録等に活用した。また、家庭学習の振り返りシートを作成して家庭での学習内容や学習量の可視化を図り、教師からの適切な助言が行えるようにした。

宇多津幼稚園： ドキュメンテーション(子どもたちの言動や活動内容などを写真や動画、コメントなどで記録する)により子どもたちの学びについて振り返り、保育者全員で学び合う態勢づくりに努めた。また、県教委より指導者を招請し、若年教員の育成を目指した。

2 家庭・地域との連携の充実と情報発信

・ 学校と家庭の連携・協働(対話)

… 願いの共有、基本的な生活習慣づくり、家庭の教育力向上、PTAや子育てサークルとの連携

・ 学校と地域の連携・協働(対話)

… 地域に開かれた学校づくり、地域から学ぶ活動の充実、地域の高等教育機関との連携
地域のボランティア活動や行事への参加、地域の見守り活動、あいさつ運動

目標達成に向けた今後の課題

・ コロナ禍のため、ペア活動やグループ活動に制限があり、個々の交流による高まりの場を設定することが難しかった。そうした中でタブレット端末を活用した取り組みが始まり、今後のさらに効果的な活用の道を探っていききたい。

・ 一方で、その目新しさに惹かれ、タブレットを使うこと自体が目的化してしまう恐れもあり、授業と家庭学習がつながる有効な学習サイクルを構築していく必要がある。

【学識経験者の意見】

・ 「願いの共有」という発想は他にあまりないので、いいと思う。

・ 基本的な生活習慣づくりをどう進めるか、具体的な検討を。

・ 学習習慣の確立はよい目標である。幼稚園からの習慣作りも必要だと思う。

・ 5か年計画を確証するためにもデータの数値化が必要。

・ 各校園にそれぞれ学び合いにおける「形」から入る指導があるのがいい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	② 英語教育・外国語活動の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 町教育連携の取組として

平成30年度より3年間、中学校の英語科教員が小学校高学年の外国語活動の授業に入りサポートする取組が香川県で始まった。この制度と、本町が文部科学省から指定を受けている「外国語活動に関する特別の教育課程編成」を活用して小学校の全学年で外国語に関わる活動、学習に取り組むことができた。

2. 各学校の取組み

保幼小中の滑らかな接続を実現するための取組や中学校でのオールイングリッシュの授業実践も実施し、英語を使う楽しさを味わう子どもが育ってきている。

宇多津小… 中学校英語教員の派遣を受け、ALTや担任とも連携して充実した体制で英語教育に取り組み、外国語活動に苦手意識を持つ子を少しでも減らすよう努めた。

宇多津北小… 現職教育の組織である「授業づくり班」において、発達段階に即して児童が英語を使う楽しさを味わえる外国語活動を展開するために、授業実践に加えてEnglish timeの計画・運営、English roomの環境整備に取り組んだ。

宇多津中… 英語の授業は各学年とも週4時間であるが、本校では総合的な学習の時間のうち週0.5時間を「コミュニケーション(国際理解)」に充て、ALTとのT.Tによってオールイングリッシュの授業を行っている。こうした取り組みは通常の授業においても積極的に取り入れ、さらにICTを積極的に活用して意欲の向上を図っている。

宇多津幼… 月2回、ALTとともに英語に触れながら遊び、学ぶ「英語であそぼう」の活動によって子どもたちは楽しみながら英語に親しむことができた。年長児・年中児ともに100%の子どもが「好き」とこたえている。

目標達成に向けた今後の課題

- ・ALTの効果的な活用やEnglish timeにおける工夫した取り組みによって楽しく意欲的な活動ができてきている。これが単なる活動の面白さに終わることなく、「楽しさ」の質を高めていくための実践の積み重ねが求められる。
- ・学年が進むにつれて「書くこと」の指導に難しさを感じている教師も多く、小中の連携を重視した体系的な指導も進めていかなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・こうした取り組みをHPなどで発信するのもよいのではないか。
- ・幼小中の全体で「英語・外国語活動」の授業改善に取り組んでいるのがよい。
- ・英語学習は“習うより慣れろ”であり、中学校でのオールイングリッシュの取り組みはとても良い。また、書くことで学力は評価されるので、これも繰り返し行うことだと思う。
- ・小学校における全学年での外国語(英語)の活動は続けてほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	③ ICTを活用した情報教育の推進

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- (1) 導入したタブレット端末を活用しての情報活用能力の育成
- ①各校代表が操作方法について業者からの研修を受講。
 - ②まず、各校で教師自身が基本的な操作を確認し、積極的に活用。PC部会員を中心に今後の活用についての研修を実施。
 - ③各学年の活用能力に合わせて、授業の中で児童生徒ができることから活用。
- (2) プログラミング教育の推進(※2020年小学校、2021年中学校で必修化)
- ①各校で「プログラミング教育」の推進。PC部会で各校進捗状況の情報交換を行い、今後の進め方等を協議。
 - ②小中学校に1台ずつPepper(ソフトバンク)を設置。活用して「プログラミング学習」を進めた。
 - ③各校プログラミング学習について
 - (小学校)5年理科:プログラミング学習で、電気をつけたり消したりした。
 - 6年算数:プログラミングで台形を作図した。
 - (中学校)技術・家庭科プログラミングの学習において、フローチャートを使ってロボットをどうやって動かせるかを考え、実際に動かしてみた。
- (3) 情報モラルの教育について
- (小学校)学校や家庭でタブレット端末を使用するにあたり、児童に対しては使用するにあたってのルールやパスワードの管理について、また、ゲーム依存については担任が学級で指導を行った。保護者に対しては文書を配布し、啓発を行った。
 - (中学校)生徒には、各教科、道徳、学年団の集会等でスマホの利用に関する指導や情報モラルについて指導、保護者には町連携 健康教育部会作成の対策プリントを配布し啓発を行った。
- (4) 町教育連携専門部会(PC部会)の開催
- ①第1回(9/28)・業者より導入されるタブレットの使用について説明 ・質疑・応答
 - ②第2回(1/19)・各校でのタブレットの使用状況について

目標達成に向けた今後の課題

- 情報活用能力の向上
- 学校においては、教師が端末等の使用についての研修を行い、操作技術のスキルアップを図り、各学年に合った授業を展開していく。また、将来的に端末を持ち帰ることを検討しているので、この機会を利用して、親子でICT機器の活用や情報モラルについて一緒に考えさせるために、子どもと保護者にアンケート(チェックシート)等を検討していく。
- PC部会において
- ・「プログラミング教育」について、各校の進捗状況を知るために、十分情報交換をする必要がある。
 - ・ICT機器の活用等で学校間の差が開かないように、進んでいる学校のICT担当者等が講師となり、研修の機会を設ける必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・おそらく数年～10年後にはプログラム競争が激化し、勝者が世界をリードします。そうした時代に向けて若い方々が育つ環境が必要です。
- ・タブレットは配ることが中心になっている感じが強く、使いこなすには時間が必要。また、タブレットの適した学習内容等の研究も必要で、現職教育の充実を。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
	④ 特別支援教育の推進 ～特別支援教育～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

町では、特別な支援が必要な子どもが多様化し、その数が年々増加傾向にある。各学校(園・所)では子ども1人1人にあった適切な指導を行うように努めているが、専門的な知識を持っている指導者は少なく、対応に苦慮しているのが現状である。そのような中、町教育連携協議会の特別支援教育部会において、保育所から中学校までの特別支援教育に携わっている指導者が集まり、子どもの実態に応じた指導や支援について情報交換を行い、学校間の連携を深め滑らかな移行が図れるよう研修を積み重ねている。

【各学校の状況】

	H30			R元			R2		
	知的	自閉症	肢体	知的	自閉症	肢体	知的	自閉症	弱視
宇多津小学校	①3	②9	0	①5	②9	①1	①7	①8	①1
特別支援学級クラス数・児童数	3クラス・12人			4クラス・15人			3クラス・16人		
通級学級児童数	24			18			24		
宇多津北小学校	②9	①6	①1	②11	①6	①1	②10	①6	0
特別支援学級クラス数・児童数	4クラス・16人			4クラス・18人			3クラス・16人		
通級指導教室(巡回指導)児童数	5			6			5		
宇多津中学校	0	①5	①1	0	①4	0	①2	①6	0
特別支援学級クラス数・生徒数	2クラス・6人			1クラス・4人			2クラス・8人		
通級指導教室(巡回指導)生徒数	3			2			3		

【県・町研修】

- (県) 特別支援教育コーディネーター研修会
- (町) 教育支援委員会 年1回(12月3日)、臨時教育支援委員会 必要があれば(4月10日 1回)
- (町) 特別支援教育部会 (8月5日、11月19日 2回)
- (町) 特別支援教育コーディネーター(5名)の町内幼稚園・保育所巡回指導
- (町) 特別支援教育スキルアップセミナー(全5回 香川丸亀養護学校と共催)

【成果】

- ・町特別支援教育部会では、保・幼・小・中の各校種を一つのグループにして、それぞれの場所での困り感やその後の様子などの情報交換をすることで、縦のつながりが実感できた。
- ・本年度から丸亀養護学校の協力をえて、特別支援教育スキルアップセミナーを全5回開催。(現地研修2回を含む)指導者の日頃からの悩みを参加者で共有し、講師から関わり方等アドバイスをいただき、今後の指導に大変役に立った。

目標達成に向けた今後の課題

- ・様々な子どもの対応に苦慮している指導員のスキルアップを図るために、次年度も専門機関の協力のもと、町独自で研修会を継続して実施する必要がある。
- ・対応が難しい子どもが年々増加しているため、共通の課題を持ち保・幼・小・中のステージでどのような支援ができるか十分話し合い、連携して対応していかなければいけない。

【学識経験者の意見】

- ・心理士チームとコラボレートする必要もありそうです。
- ・特別支援教育は個々の児童生徒への対応が求められることから、とにかく人手が必要。また、対応が難しい子どもが増えている中で普通学級での生活や交流も行われることから職員全体での研修や現職教育は適切な施策と考える。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～ 教育相談 ～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 目的

特別支援学級（学校）に通う児童・生徒及び保護者、発達障害やその疑いのある児童・生徒及び保護者、発達が気がかりな幼児等の保護者を対象に、園（所）・学校・家庭が連携し、幼児・児童・生徒の心身の発達に寄与することがねらい。

2. 年間回数

- (1) 月1回を原則に、年間13回（4月開始、8月のみ2回）実施。4人程度/回。
- (2) 8月に実施する2回は、就学相談として、就学前年長児及び保護者を対象に教育相談を実施した。また、この教育相談以外にも、保健センターの相談員に依頼して、希望者全員に相談活動を実施している。

3. 実施体制

- (1) 月1回、午後1時～午後5時までを原則に、各4人ずつの予約制。
- (2) 7名が継続で年間予約し、年間4回の計画で相談を行った。
- (3) 毎回、原則第1番目の枠13:00～14:00を「新規枠」として確保し、対応している。

4. 相談員委嘱者

- (1) 氏名 山地 裕子 先生
- (2) 資格 言語聴覚士

5. 他機関との連携

- (1) 所属の園（所）・学校
- (2) 医師、施設等の専門機関

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 年度の終わりに次年度の希望を伺い、優先的に継続相談が受けられるよう配慮している。合わせて新規の相談者募集を広報紙を通じて行い、1学期の終わりには追加募集を行った。今後は各小学校と連携しながら、年度途中での相談依頼にも対応できるようにしたい。また、相談者が来庁しやすい日時の設定についても検討してみたい。
- ・ 夏休みに実施している就学相談は希望者が増加しており、可能な限り対応できるよう実施枠の追加を検討し、さらに入学後の継続的な支援へとつなげることができればと考えている。

【学識経験者の意見】

- ・ 効果測定も必要あり。
- ・ 特別支援の教育相談はきめ細かく行うことがポイントで、時間的な配慮から定期的な時間枠と随時枠を組み合わせる必要があるが、適切な方法で実施できている。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(1) 宇多津町教育連携5か年計画による教育の推進
事業内容	④ 特別支援教育の推進 ～ 私の成長シート ～

令和2年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- 「わたしの成長シート」
 - 例年実施している町連携小1連絡会がコロナ禍で開催できず、事前打合わせは実施なし。
 - 昨年度同様、次年度入学児童にかかる就学指導として、6月1日、幼稚園、保育所等を通して保護者あてに「わたしの成長シート」を配布した。
- 「わたしの成長シート」に基づいた教育相談の実施
 - 「わたしの成長シート」には教育相談の希望の有無を記載する箇所を設けている。令和2年度は、22人の保護者より相談希望があり、希望者の内20名について7月～9月に教育相談を実施した。
 - 相談の結果は、所属園・所および町特別支援教育コーディネーターに伝え、今後の巡回指導や資料作成の参考にしていただいた。
 - 教育相談の結果等を参考に各園・所が教育支援委員会の資料を作成し、委員会で説明を行った。教育支援委員会では、資料をもとに個々の子どもにとって最も適切な指導及び必要な支援が受けられるよう判定された。（特別支援学校0人、特別支援学級3人、通級による指導2人）
 - 相談時に、保護者には「就学前児童健康診断」の日程のお知らせをしたり、また、小学校の特別支援教育コーディネーターには、今回の相談内容で特に気を付けて欲しいことを事前に伝えるようにするなど、連絡を密にとり情報を共有した。

目標達成に向けた今後の課題

- 「わたしの成長シート」アンケートにより、教育相談を希望する保護者に、相談の日程調整をしているが、今後はアンケートの様式を見直すなどして、つなげる相談者を明確にするよう検討実施し、就学前児童、保護者に対しより細やかな相談の場となるようにしたい。
- 1で教育相談を受けた保護者が、子育てや就学等についての悩みが少しでも解消できるように、学校のコーディネーターや保健師等に繋いでいく必要がある。
- 「わたしの成長シート」を十分確認し、相談希望がない保護者についても、問題があると判断された子どもについては、町特別支援教育コーディネーターと相談し、幼稚園・保育所より、保護者に教育相談を勧めてもらう必要がある。

【学識経験者の意見】

- 成長シートのアプリケーションなども一手かと思う。
- 指導カルテとしての「わたしの成長シート」は適切。こうした活動を通じてどの程度の掘り起こしができるか、また保護者に問題点がある場合の対応をどのようにしていくかが課題。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(2) 教職員の資質・能力の向上
事業内容	①改訂学習指導要領の趣旨に沿った授業改善 ②町教育連携協議会の充実 ③ステージ研修の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- 1 改訂学習指導要領の趣旨に沿った授業改善
新学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、町連携全体においては「子供が喜びを感じ、生き生きと活動する学びの実現」を重点課題として掲げ、子どもの実態に応じて現職教育主任を中心にそれぞれの学校が授業改善に向けて取り組んだ。
- 2 町教育連携協議会の充実 …… 年2回実施。
 - (1) 第1回 6月24日(水) 宇多津中学校 13:30~16:30
※ 例年は町内公立の幼保小中の全教職員が一堂に会して実施してきたが、新型コロナウイルス感染症対策として本年度宇多津町に赴任した者及び教職経験3年未満の者のみの参加とし、それ以外の教職員はそれぞれの勤務校においてリモートで視聴した。
 - ① 前年度までの取組みと本年度の研修計画についての説明
 - ② 「第三次宇多津町教育連携5か年計画」リーフレット等により、新学習指導要領の趣旨を踏まえて宇多津町の目指す教育について前田教育委員より講話。
 - (2) 第2回 10月14日(水) 宇多津小・宇多津北小・宇多津中
※ 今回も全員が参加しての授業参観は見送り、ステージ研修を行った。授業参観については、各校園が現職教育の一環として通常行っている研究授業を町内各校園にも公開することで、広く研修の機会とすることとした
 - (3) 情報交換部会 保幼小中の関係教職員が集まり、年間計画に従い2~4回実施。
 - ① 小1連絡会 ② 中1連絡会 ③ 健康教育部会 ④ 特別支援教育部会
 - ⑤ 不登校部会 ⑥ 読書指導部会 ⑦ 英語教育部会 ⑧ PC活用部会
 - (4) 夏季研修 8月5日(月) 宇多津小・宇多津北小・宇多津中
※ 例年は町内の全教職員が参加し、午前中は人権・同和及び地域学校保健の講演会を実施してきたが、本年度は会場を3つに分け、ステージ研修を実施した。
- 3 ステージ研修の充実
教職員特例法の一部改正を受け、町連携でも年代別の研修を取り入れ、経験年数に応じた共通の課題を持つ教職員どうして研修を深めることで、実践的指導力の向上を図る。
 - ・若年研修部会 …… クロスロードやロールプレイングでの交流、アサーショントレーニングなどを通じて共感的にコミュニケーションを図るためのスキルを研修した。
 - ・ミドル研修部会 …… 「キャリアパスポートの活用について」
 - ・ベテラン研修部会 …… 「児童虐待について(講話)」 「プログラミング教育について」

目標達成に向けた今後の課題

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から多くの職員研修が中止となった。これまでの実践の積み重ねが少ない若年教師にとってその影響は大きく、学校で、あるいは町としていかに若年教師の研修の機会を確保するかを大きな課題として取り組んだ。

一方で、この危機的な状況を救う有効なツールとしてICT機器の活用が急務となったわけだが、町全体として学校差のない同質な教育を進めていくための研修を町が主体となって企画・運営していかなければならない。

【学識経験者の意見】

- ・盛りだくさんの内容になっている。実績値のような指標導入もあるといいと思う。
- ・「小1連絡会」「中1連絡会」「不登校部会」は前任者との間の信頼関係に基づき、「何を」共通理解し、「何を」共通行動し、継続して「だれと」連携していけばよいかを知る、重要な部会である。
- ・自身の経験からも「学校事故等の事例研修」はきわめて重要である。
- ・新学習指導要領の内容をどう理解し、解釈するかを各教師に伝えていく意味で適切な研修が行えている。年代別ステージ研修などは長期休業をうまく使って続けてほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	① 実践的な防災教育の実施と防災力の向上

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 防災研修活動

(1) 教職員研修

シェイクアウト（県民一斉地震防災行動訓練）や避難訓練を実施する前に共通理解を図り、事前指導について協議している。また、職員会等では危機管理マニュアルや校内の避難ルートの見直しなども行われ、いつでも対応できる心構えと危機管理に努めている。

(2) 教職員の共通理解のために

心肺蘇生法、AED、エピペンの使用についての研修に取り組む一方、避難所施設の整備の機会をとらえて町危機管理課の協力のもとで講習を行い、防災に関する共通理解を深めた。

2. 防災教育

幼稚園： 県の学校防災アドバイザー派遣事業を活用して防災計画・危機管理マニュアル作成への助言と指導をいただいた。また、10月の避難訓練・引き渡し訓練においても近隣学校や関係機関の専門家からの指導を受けることができた。

宇小： 火災、地震を想定して定期的に防災訓練を実施し、あわせて引き渡し訓練を実施した。また、安全点検を実施して危険箇所を早期に発見し、対応を検討した。

宇北小：① 防災研修活動

不審者侵入、地震発生、火災の事象を想定した避難訓練を実施した。

② 防災教育

防災訓練実施後には発達段階に応じて指導を行った。また、かつて災害等が発生した日や教科の学習で災害に関する内容を扱った時には、機をとらえて意識を高める指導を行っている。

宇中： 年2回の避難訓練に加え、香川県シェイクアウト訓練に参加して地震の際の対応について確認した。また、町危機管理課から講師を招いて防災教室を実施し、避難所のマンホールトイレ、段ボールの間仕切りについて実物を見ながら講話を聴いた。PTAにおいても同様の研修を行った。

目標達成に向けた今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来の防災・安全に対する視点の中に「感染予防」の視点を必ず入れていく必要がある。
- ・防災を自分や自分の大切な人の命にかかわる重要なこととして受け止めていけるよう、より身近で具体的なテーマを取り上げるなどして問題意識を高めていかなければならない。
- ・はじめて幼稚園単独で引き渡し訓練を実施するなど職員の意識も高まっているが、全員で改善点を話し合ったり役割を補い合えるようにしていくことがさらに必要である。

【学識経験者の意見】

- ・インシデントプロセスなども取り入れた研修も必要。
- ・保護者との連携の観点から、保護者への周知、報道機関等への情報提供、メールシステムの活用などを検討してはどうか。
- ・学校管理下の訓練として、シェイクアウトや火災時の訓練などを実施してほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	② 交通安全教育の充実

令和2年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

(取組み)			
	目 標	登下校指導	交通安全教室
小 宇 多 校 津	「自分の命は自分で守る」という安全意識と実践的な態度を育む交通安全指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の立哨指導。 担当する地区の危険箇所点検、現地指導 リーダー指導、班長会で指導 	交通安全教室(4月 1年生)
小 宇 多 津 北 小 学 校	児童の安全に対する意識を高め、交通ルールを守って、安全に生活ができる児童を育てる。また、SOSマップ等を活用し、校外の様々な場面で進んで自分の命を守ることができる児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 登校時の立哨指導。 担当する地区の危険箇所点検、現地指導 PTAが行っている現地指導の情報を、校内での様々な指導に活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室・・・中止 自転車実技指導(4年 DVD視聴)
中 宇 多 校 津	命の大切さを認識し、交通ルールを守り、安全に通学する態度を身に付けさせる。また、交通マナーを理解し、地域の人に迷惑をかけないように、社会の一員としての態度やモラルを育む。	<ul style="list-style-type: none"> 通学路の安全確認 交通法規の意義と安全についての講話 交通事故の加害と被害についての講話 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室・・・中止 自転車点検
幼 宇 多 園 津	身に迫る危険を自分の目で確かめたり、耳で聞いて感じたりして、自分の命を自分で守ろうとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場との往復は、親子で手をつないで歩くことを含め、徒歩通園をするよう保護者に話した。 園外保育時に安全な道の歩き方を指導。 	<ul style="list-style-type: none"> こじかクラブ入会式(4月 PTA総会時) 交通安全紙芝居、DVD視聴 就学前交通安全教室。(2月末)

(組 織 活 動)

PTA・・・立哨指導、地域安全パトロール 学校支援ボランティア・・・登下校の見守り
 少年育成センター・・・巡回指導 青パト・・・町内巡回
 交通指導員・・・登校指導

町交通安全プログラムによる合同点検・・・関係者が集まり、学校提出の危険箇所等の情報をもとに合同点検を実施し、実際に危険性等を確認し、警察等の専門機関の指導を受けた。

目標達成に向けた今後の課題

- (町) 町内の危険箇所の情報が十分共有できていないので、合同点検を行い関係者が危険箇所を知ると同時に、指摘された箇所の問題や改善点等を各部署で考え対応する必要がある。
- (幼) 日常生活の中で、幼児自身が交通安全に対する意識があまりないので、親子での徒歩通園を進めることにより、親子が一緒に歩いてくる中で、交通安全について考える機会としていく。
- (小) 交通ルールを守り、自分自身で安全を守るという意識が持てるよう、交通教室を開催したり、(十分コロナ感染症予防対策を取る) また、各学級で機会を見つけ繰り返し指導していく。
- (中) 自転車マナーの悪さが指摘されているので、機会を見つけて全校や学級で1列運転、交差点を横断する時には一旦停止を確実に実行、ヘルメットの着用、ながら運転の禁止等を繰り返し指導していくことが必要である。

【学識経験者の意見】

- ・防犯との連動も必要。特に、多発しているスマートフォン等による犯罪。
- ・中学生の自転車は問題あり。「車両」であるという意識が低く、対策が必要。
- ・「交通危険箇所マップ」を作成するなど、全町的な取組を行ってはどうか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	③ 問題行動等の未然防止・指導体制の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 文部科学省による調査から

(1)	暴力	対教師	破損	いじめ	解消	不登校	解消	指導中	自殺
小	1	0	0	89	76	5	0	5	0
北	2	0	0	41	28	5	1	4	0
中	1	0	0	16	12	30	6	24	0

(2) 結果からの考察

いじめ・暴力行為については従来、学校によって基準がまちまちになっていた。そこで、文科省や県教委の示した目安をもとに町としての判断基準を明らかにし、「いじめは受けた側の心身の状況から積極的に認知し、それを職員全体で共有して多くの目で見守っていく」という方針を定めた。その結果、いじめの認知数としては前年度より大きく増えたが、子どもの様子自体には大きな変化はなく、概ね落ち着いた学校生活が送れている。認知件数に占める割合としては低年齢になるほど高く、発生時期も4・5月の臨時休校や夏休みなど長期の休業の後に多く、新型コロナウイルス感染症への対応による影響が考えられる。

不登校については大きな人数の変動はないが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用して情報収集や家庭との信頼関係の構築に努めている。

2. 生徒指導に対する施策

(1) 校内の組織的努力

① 教職員が一体となって、未然防止と早期発見・早期対応にあたるなどの取組や、家庭・地域社会等の理解を得て、地域ぐるみでの取組を推進している。

② 「チーム学校」の構築… 県費教職員だけでなく、学校には町講師・支援員等のほかにSC、SSW、SSTなどが配置されており、こうした専門家が役割を発揮して対応している。

(2) 外部専門家を活用した連携による対策

① 町においては包括支援センターや少年育成センターとの連携を図って見守りや相談等の活動に継続的に取り組んでいる。

② 地域ぐるみの連携として「いじめ防止等対策委員会」や「サポートチーム連携協議会」、民生児童委員や少年育成センターの協力も得ている。

③ 事案によっては、児童相談所や中讃保健事務所、家庭支援センター等による家庭全体への支援が必要な場合もあり、総合的見地からの取組を推進している。

目標達成に向けた今後の課題

・ 不登校傾向にある児童生徒の「学びたい」という気持ちに応えるため、教育支援センターの効果的な活用方法や一人一台の構想の下に導入したタブレット端末を活用しての学力保障の方向を探っていききたい。

・ いじめについては積極認知を行うことで学校全体で事案を共有し、より効果的な指導や関わりに生かしていこうとする方向性は定まったので、具体的な実践につなげていききたい。

【学識経験者の意見】

・ 新型コロナウイルス感染症の状況もあり、いじめが発生する要因が増している。その対策、特にPFA（心理的応急処置）をお願いしたい。

・ 未然防止では「配慮や理解が必要な児童生徒」を情報共有し、見通せる教室配置や校内巡視を行う。

・ 教師一人で抱え込まない、学校だけで抱え込まない教師間の情報交換を。

・ 事実と揣摩臆測を峻別した記録が大切。

・ 上に掲げた今後の課題の達成をめざしてほしい。

・ 全体的にはよい指導方法がとられている。いじめは受ける側の心情が第一であり、相手のことを考え、いじめを未然に防ぐための人間教育の側面からさらに道徳教育の充実を図ってほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(3) 安心・安全な学校づくり
事業内容	④ 学校情報・地域情報配信の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. メール配信の登録 令和2年度メール登録件数 2,163件（元年度末時点の件数）
2. 不審者情報の配信
 - ・ 県警本部からの「子ども安全情報」の提供があれば、教育委員会から不審者情報の配信を実施。
 - ・ 香川県警察ヨイテスマートメールに登録し、より速やかな情報の収集に役立てている。
 - ・ 宇多津町福祉施策の一環として、認知症などで高齢者の行方不明者が発生した場合の一斉配信にも活用している。
3. 学校からのメール配信
 - ・ そのほか災害情報（気象警報等）による登下校時間の変更、臨時休校及び学校行事等の情報について、教育委員会及び各幼稚園、学校からメール配信を実施。
 - ・ 令和2年度メール配信件数（主にはコロナ禍でのメール配信）

学校教育課	19件	宇多津小学校	20件
宇多津幼稚園	8件	宇多津北小学校	30件
少年育成センター	16件	宇多津中学校	19件
		計	112件

目標達成に向けた今後の課題

1. 毎年更新、登録者の管理をする上で、各学校単位で登録、管理、卒業生の登録者の削除、また、保護者からメールで欠席ができるようにしたり、既読状況の把握ができるような業者を検討していく。
2. 令和2年4月以降のコロナウイルス感染症の対応に向けた、メール配信を町教委、各学校と連携して、統一できたが、共通した情報を配信する場合は、保護者に分かりやすく簡潔に早く伝えられるよう、各施設との連携を工夫する必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 今一度町内不審者情報を統計的に捉えなおす機会を。
- ・ 近隣市町を参考に、より効果的な情報配信方法を模索してはどうか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	①安全・安心な学校給食の実施

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

○食物アレルギー対応

1-1. 新入生の対応

学校等は入園願書受付時・就学時健康診断時に必要書類を対象保護者へ配布・提出依頼及び食物アレルギー対応内容を説明した。

1-2. アレルギー対応希望者（新規）

学校等は保護者から希望があった場合、必要書類を配布し、保護者は学校または教育委員会に提出した。

1-3. 対応継続時（学年、施設が上がる場合）

学校等は対応を継続して希望する保護者に対して必要書類を配布する。教育委員会は提出された書類をもとに審査を行う。ただし施設が変わる（幼稚園から小学校など）場合は面談も執り行った。

2. 個別面談

教育委員会は提出された書類をもとに個別面談を開き、保護者からアレルギー症状の聞き取りを行い、学校関係者、栄養教諭、給食センター事業者と情報を共有し、対応内容を保護者に説明した後に対応を決定した。

3. 対応決定

教育委員会は対応決定通知を保護者に送付し、学校ごとに対応内容をまとめた一覧を学校、給食センター事業者へ送付した。

4. アレルギー対応食指示書（毎月栄養教諭作成）

栄養教諭、調理委託業者で打合せを行い、対応食について確認を行った。

5. 保護者への対応（毎月）

予定献立表を配布し、最終確認を行った。

6. 対象者数（令和3年3月31日現在）

中央保育所 2名、宇多津幼稚園 3名、宇多津小学校 10名
宇多津北小学校 15名、宇多津中学校 10名 計 40名

○異物混入時の対応経路（略式）

- ①異物発見 ②当該クラスの給食中断(担任) ③担任→教頭→校長に連絡 ④教頭→教育委員会に連絡
⑤教育委員会→宇多津給食サービス、宇多津町給食センターに連絡 ⑥当該献立の中止連絡
⑦給食サービスによる異物混入経路の調査、代替食の手配等 ⑧健康被害調査及び保護者に対策等の説明

○異物混入報告件数

平成30年度：3件 平成31年度：4件 令和2年度：2件

○国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業のうち学校給食への食材提供の利用について

農水畜産物の学校給食への無償提供事業を利用し、オリーブ牛、オリーブ地鶏、さめきサーモン等、県ブランド食材を保育所、幼稚園、各小中学校に給食提供を行った。オリーブ牛については宇多津小学校に生産者の方に来ていただき、校内放送や実際に牛の餌を触る等をして食育につながった。

目標達成に向けた今後の課題

- ・アナフィラキシーショック発生時に対応するため、香川県小児科医会が作成した「アレルギー対応緊急マニュアル」に基づき、エピペンを使った研修を継続して行う。
- ・対象児童について、校内で情報を共有し、共通理解を図る。他の児童についても、アレルギーに対して理解を深めるように努める。
- ・マニュアルの運用に当たり、全ての児童・生徒に安全な給食を提供するため、適切に改訂を行う。
- ・学校給食に関するマニュアルが各施設全体には浸透していないので情報共有を密に行う。

【学識経験者の意見】

- ・入念になされていると思う。
- ・異物混入時の対応経路ができており、明記されている。
- ・給食を作る側（栄養教諭等）と食べる側（特に担任）の間の連携を十分に行い、指導の効果を高めること。特に保護者に向けては担任がキーマンになる。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	② 家庭と連携した食育の推進並びに生活習慣病の予防促進

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 対象者 小学校・・・4年生(166名) 9, 10月実施
中学校・・・1年生(169名) 10月実施
2. 検査項目と結果
肝機能検査：GOT (AST) ・GTP (ALT) ・γ-GTP
脂質検査：総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪
糖尿病検査：HbA1c (NGSP)
貧血検査：赤血球数・色素量・ヘマトクリット
☆一次検査受診者：小学校152名・中学校154名
観察者(内要精検査者)：小学校56名〔36.8%〕(16名)・中学校50名〔32.5%〕(16名)
☆二次検査受診者：小学校35名・中学校23名 一次検査観察者との割合〔小62.5% 中46%〕
観察者(内要精検査者)：小学校23名〔65.7%〕(21名)・中学校14名〔60.9%〕(14名)
3. 個別指導の必要な児童について
 - ・ コロナ禍で血液検査は9, 10月に実施となったこともあり、学校休業、夏休み後の血液検査のためか、要精検査者が前年より増加している。
 - ・ 元気っこクラブは中止。
 - ・ 今年度より設置した「宇多津町小児生活習慣病予防対策委員会」を1月に開催した。学識経験者を招いて、宇多津町立学校の小4、中1の血液検査データと香川県のデータとの比較や、学校医、養護教諭等の意見交換を実施した。

目標達成に向けた今後の課題

1. 元気っこクラブについては、今後の実施内容を見直して、コロナ禍でも小児生活習慣病予防を意識づけられるような内容を検討したい。
2. 今年度より「宇多津町小児生活習慣病予防対策委員会」を設置し第1回目を実施した。養護教諭、栄養教諭等連携を取りながら、学識経験者も招くことができ、色々と意見交換が出来たと思う。今後も委員会を開催して、小児生活習慣病予防対策、又ゲーム依存症についても取り組んでいきたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 二次検査の対象者が多いことに驚いている。
- ・ 専門家としての養護教諭、栄養教諭だけでなく、家庭と直接のやりとりは学級担任が中心となるので、予防委員会への参加を検討してもいいのではないかと。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(4) 健康教育の推進
事業内容	③ 基本的な生活習慣を身につけるための啓発活動の促進

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

(1) 早朝ラジオ体操

- ・ 目的 : ラジオ体操参加により、規則正しい生活を送る。
地域の方や近隣の子どもたちと交流の場を設ける。
- ・ 日時 : 夏休み期間中(8/1~8/31) 午前6時30分~ラジオに合わせて約10分間
- ・ 場所 : 町内19会場 参加者: 1,358人(昨対比68人増)
- ・ 周知方法 : 各幼稚園保育園、小学校、中学校へ出席カードと日程表を配布した。
他町広報誌、自治会回覧にて周知した。
- ・ 中学生以下参加人数【学校(園)からの記念品希望者報告人数のため参考程度】
宇多津幼稚園11名 宇多津小学校88名 宇多津北小学校190名 宇多津中学校290名

目標達成に向けた今後の課題

- ・ ラジオ体操の参加者は本年度は増加したが感染症の終息のめども立たず、今後減少してしまう事も考えられるので啓発活動を積極的に行い、ラジオ体操を通して、基本的な生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん」を推進する。
- ・ 子ども会や自治会の衰退などでお世話をして下さる住民の方がいなくなったり、負担が大きい地区がある。負担を減らすため、スポーツ協会等の集まりの際に協力者を募る。
- ・ 各会場からの人数報告に新たに中学生以下の参加人数を付け加え、参加状況を把握し、子ども達が基本的な生活習慣を身に付けられるよう考慮していく。
- ・ 家庭教育啓発月間では、「早寝・早起き・朝ごはん」や「あいさつ」をはじめとした、望ましい生活習慣づくりに地域一体となって取り組む必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 夏休みのラジオ体操は期間限定的ではあるが、社会的な意味はある。健康づくりのための全体的な計画があり、その中にラジオ体操を位置づけるのが効果的。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(5) 教育施設の環境整備
事業内容	① 学校諸施設の整備・充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

「宇多津町学校施設長寿命化計画（個別施設計画）」の策定

令和2年度、「宇多津町公共施設等総合管理計画」に基づいて、町内学校・社会教育施設の老朽化等の状況を把握し、学校・社会教育施設の役割を考慮したうえで、中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、こうした学校施設に求められる機能・性能を確保することを目的に策定した。

「工事及び環境整備」

(単位：円)

(事務局)	・庁舎サーバー室電源増設工事及び教育委員会用LAN配線工事	229,900
	・GIGAスクール用ひかり10Gbps引込・校内等工事	198,000
(宇多津幼稚園)	工事なし	
(宇多津小学校)	・バックネット更新工事	5,940,000
	・新管理棟パラペット落下防止ネット貼り工事	1,298,000
(繰越予算)	・校内通信ネットワーク工事	8,105,020
(宇多津北小学校)	・体育館ステージ壁改修工事	682,000
	・網戸新設工事	418,000
	・網戸新設追加工事	121,000
	・音楽室映像・音響機器更新工事	55,000
	・動力トランス取替工事	1,159,400
(繰越予算)	・校内通信ネットワーク工事	8,794,610
(宇多津中学校)	(繰越予算)・校内通信ネットワーク工事	8,048,150

目標達成に向けた今後の課題

- ・「宇多津町学校施設長寿命化計画（個別施設計画）」に基づいて、修繕・工事を実施していく。
- ・令和3年度の改修予定
 - 町内小中学校：令和4年度工事予定体育館空調設備設置に向けての実施設計
 - 宇多津幼稚園：教室入口ドアガラス飛散防止フィルム張り、無線LAN拡張工事
 - 宇多津小学校：門扉取替工事、庇改修工事
 - 宇多津北小学校：校長室空調設備改修工事、防犯カメラ設置工事、ケーブルテレビ設置工事、教室黑板灯LED化工事
 - 宇多津中学校：体育館排煙窓オペレーター改修工事

【学識経験者の意見】

- ・この項目は宇多津がNo.1であってほしい。
- ・宇多津町は諸設備の整備、充実のために積極的に予算化してくれる。
- ・教育現場、特に児童・生徒の意見から改修等の対象となる場所を調べる必要がある。（多くは教職員が見つけていると思うが）

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	1 自ら自分の未来を切り拓く教育の推進
施策項目	(5) 教育施設の環境整備
事業内容	② ICT化の推進

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 令和2年度の取組み

(1) 国のGIGAスクール構想の実現に向けて、補助金を活用して町内全小中学校に整備

① 1人1台端末の整備(12月整備完了) chromebook1600台(宇小444台 北小622台 中学校534台)

② 家庭学習のための通信機器整備(1月)Wi-Fiルーター90台(各校30台ずつ)

③ 学校からの遠隔学習機能強化(3月)アクションカメラ3台、スピーカーフォン3台、ヘッドセット6台(各校1台ずつ、ヘッドセット2台)

(2) 高速大容量通信ネットワークの整備(2月整備完了) 校内通信ネットワーク工事、普通教室に電源キャビネットを配置

(3) プログラミング的思考を育むためのツールとして小中学校で1台ずつPepper(ソフトバンク)を活用

(4) Web学習サービスとしてスタディサプリを導入し、小中学校で家庭学習や補充学習に利用

(5) ICT支援員を2名雇用。各学校へ週3日(3時間/日)派遣。主に教員のハード面での困難に対する支援

(6) 小学校に校務支援システムを導入

(7) 校務支援システムを導入と同時に、セキュリティ強化を図るために庁舎内にセンターサーバーを整備

各施設ごとのICT関連機器・ソフト等の整備状況

ハード	タブレットパソコン (学習用)	デスクトップ	ノートパソコン (校務用)	タブレット	印刷機	大判プリンター	プロジェクター	実物投影装置
小学校	444	0	40	0	4	1	2	20
北小学校	622	0	47	0	4	1	2	23
中学校	534	41	43	30	5	1	4	4
備考	12月から使用	小学校は新規リース済、中学校は令和3年度10月より新規開始						

ソフト	タブレットOS	Web学習支援	ホームページ	グループウェア
小学校	Google	スタディサプリ	ふれあい通信	T-Comp@ss
北小学校	Google	スタディサプリ	ふれあい通信	T-Comp@ss
中学校	Google	スタディサプリ	ふれあい通信	ミライム
備考		12月から利用		

2. 令和3年度以降の取組み

- ・校務支援システムを導入。(中学校 10月)
- ・小中学校校務用パソコンリースの更新(中学校 10月)

目標達成に向けた今後の課題

- ・ハード面での整備が進む中、ICT活用のスキルアップが必要であるので、操作の指導や助言のために研修会を開催する等、支援体制の整備が急務である。
- ・校務支援システムの導入に伴う活用についても、操作についての研修会等を開催する必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・いいです。ただし、メンテナンスなどはかなり大変だと思います。
- ・国のGIGAスクール構想について、かなり具体的に理解できた。
- ・活用のスキルアップに向けて、現場の多忙感への対策として企業(業者)の活用を考えてもよいのではないか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域と学校が連携・協働した地域づくりの推進
事業内容	① 協働活動の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

<地域学校協働活動推進事業>

1. 事業の目的
地域と学校が連携・協働し、未来を担う子どもたちの成長を支えるため、社会総がかりで教育を行うことを目的とする。
2. 事業の趣旨
学習支援、環境整備支援、登下校見守り等の学校が必要とする支援活動を行い、教員の子どもと向き合う時間の拡充や地域の活性化を図るものである。
3. 具体的取組み件数

	令和元年度					令和2年度				
	学習支援	環境整備支援	登下校支援(※)	その他	計	学習支援	環境整備支援	登下校支援(※)	その他	計
①宇多津幼稚園	56	0	0	169	225	11	0	0	207	218
②宇多津小学校	134	33	608	108	883	170	138	562	53	923
③宇多津北小学校	153	8	1320	199	1680	116	120	1384	303	1923
④宇多津中学校	140	0	220	96	456	72	0	270	23	365

(※) 登下校支援について、毎日実施の交通指導・随時見守り、パトロール分は除く

4. その他
 - ・学校応援ボランティア募集のパンフレットを作成して、町広報誌にて全戸配布した。
 - ・本部会議で学校運営協議会の報告をすることで、地域と学校の連携・協働できる体制づくりに努めた。

目標達成に向けた今後の課題

- ・学校が求めていること、地域が協力したいことの把握に努める。
- ・広報活動を継続することで地域への呼びかけを行い、活動の継続性に努める。
- ・学校活動を中心とした活動のみでなく、社会教育分野の活動を検討する。
- ・新型コロナウイルス感染症により活動中止となったものもあることから、今後状況に応じて見極め、活動の在り方を検討する。

【学識経験者の意見】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響をどう評価するか。
- ・保護者の年代だけでなく、老人会や社会福祉協議会など特に老人世代の活用が必要と思われる。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域と学校が連携・協働した地域づくりの推進
事業内容	② 体験活動・交流活動の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

「うたづ寺子屋」、「うたづ寺子屋土曜塾」ともに新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休校により夏休みが短縮され、例年開催していた「教育週間・今日行く習慣」期間中が学校登校日となった等、新型コロナウイルス感染症による影響で中止を決定した。

目標達成に向けた今後の課題

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大時期を予想することが困難なため、実施期間を「教育週間・今日行く習慣」ととられず開催を目指す。また、様々な寺社で開催するためにも、実施期間を固定せずに開催する。
- ・昔の寺子屋のような形を目指し、例年通りの講座内容ではなく、子ども達がお寺で勉強をする時間を多くとり、講座は必要最低限に抑え、野外活動などはうたづ寺子屋土曜塾で開催するようにする。
- ・普段児童たちはお寺や神社に携わる機会が少ないと思われるのでうたづ寺子屋では仏像や神輿など日常では関わることのないものをなるべく多く組み込む。

【学識経験者の意見】

- ・ただただ残念です。もちろん仕方のないことですが。
- ・新型コロナウイルス感染症収束後（または第6波以後）の対応を検討しておくことが必要。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(1) 地域と学校が連携・協働した地域づくりの推進
事業内容	③ 放課後等児童の居場所の充実

令和2年度実施内容
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 放課後子ども教室（小学4年生～小学6年生）

スポーツ活動	名称	場所	活動日(時間)	登録数	延べ数(年間)
	卓球①教室	北小学校体育館	毎週水曜日 15:00～17:00	16	230
バドミントン教室	北小学校体育館	7		161	
卓球②教室	宇多津小学校第1体育館	8		145	
ドッジボール教室	宇多津小学校プレイルーム	毎週水曜日 15:30～17:30	11	290	
宿題活動支援	名称	場所	活動日(時間)	登録数	延べ数(年間)
	宿題サポート教室①	宇多津小学校内	月・火・木・金曜日 (下校後～17:00)	5	348
宿題サポート教室②	北小学校内	14		960	

2. 放課後児童育成クラブ（小学1年生～小学4年生）

	名称	場所	年間開設日数 開設時間	登録数	延べ数(年間)
宇校 小区	宇多津放課後 第1スマイルクラブ	宇多津小学校内	260日 <平日> 下校後～18:00 *延長保育19:00	36	4311
	宇多津放課後 第2スマイルクラブ			40	3925
北校 小区	宇多津北放課後 第1キッズクラブ	キッズプラザうたづ内	<長期休業期間> 8:00～18:00 *延長保育19:00 <土曜日> 8:30～12:30	43	3674
	宇多津北放課後 第2キッズクラブ	民有地借り上げ施設		45	4732
	宇多津北放課後 ジュニアクラブ	北小学校内		38	4097

目標達成に向けた今後の課題

1 放課後子ども教室：支援員の確保
年間を通じた活動のため、指導員の確保が難しいが、指導員の人脈等をもとに協力を呼び掛けていく。（令和2年度末にて2名退任）
各スポーツ教室：毎週水曜日（40回程度/年間）
各宿題サポート教室：毎週月・火・木・金曜日（130回程度/年間）

2 放課後児童育成クラブ
：支援員不足（シルバー人材センターへ支援員補助依頼常態化）＝ハローワークより求人中
：特別に配慮を必要とする児童の対応策＝学校職員（担任など）からの情報提供必要。
：長期休業期間における児童数増の対応＝長期休業期間のみ利用者の活動場所の提供について学校へ協力依頼。
長期休業期間に限り、校内の1教室を学童保育の活動場所として活用を検討する。
：就学後における子育て支援事業の充実＝家庭からの保護を要する児童の保育（保護）体制。
児童の保護を目的とした、保育についての相談増。

【学識経験者の意見】

・どのように協働するか。かなり難しい課題です。
・指導員の人材確保が課題。フレックス制や賃金体系など見直す必要があるかもしれない。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成
事業内容	① 地域活動への積極的な参加促進

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が見えるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 具体的実践内容

(1) 宇多津幼稚園

- ・ 月に一度「おそうじデー」を設定し、全園児で園庭の草抜きや石拾い、ごみ拾いをして、自分たちの幼稚園を自分たちできれいにしようとする気持ちを育てている。
- ・ 「茅の輪くぐり」や「宇多津まつり」など、地域の人や行事と触れ合える貴重な機会の多くが今年度は中止となってしまった。

(2) 宇多津小学校

- ・ 地域の方が多数校内でボランティア活動をしてくださっている。これらの様子を紹介して感謝の気持ちを持たせる一方で、地域の方と話し合う中で児童が自らできることや、一緒に行える活動について話し合った。

(3) 宇多津北小学校

- ・ 全学級に週1回「ちょボラタイム」を位置づけ、各学級でボランティアの内容を考えて取り組んだ。
- ・ 登下校時におけるごみ拾いボランティアなど、こうした状況下でもできる活動に取り組んだ。
- ・ ボランティア銀行への活動に取り組んだ。

(4) 宇多津中学校

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、校外に出て行う多くのボランティア活動が中止となり、本年度は夏休み中の10の活動に延べ155人が参加するにとどまった。そのためボランティア銀行の活動への十分な参加はできなかった。
- ・ 校内においては、朝のあいさつ運動、行事前の清掃ボランティアなど従来からの活動に継続的に取り組んだ。

2. ボランティア銀行に贈呈されたハート数と各団体への贈呈品

宇多津小 163,030ハート 宇多津北小学校 498,607ハート 宇多津中 38,850ハート

- 【主な寄贈品】
- ・ 非接触型体温計
 - ・ お出かけバス待合所用ベンチ購入
 - ・ ユーブラザウたづに肘なし椅子
 - ・ 花植え活動への補助
 - ・ 駅前清掃活動補助

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 各校園で工夫した取り組みを継続することで、主体的にボランティアに取り組む習慣は着実に根付いてきている。
- ・ 地域活動への積極的参加を図りたいと考えていたが、新型コロナ感染症拡大の影響により中止を余儀なくされてしまった。今後、活動が再開できるようになったとき、児童が地域の一員として積極的に参加できるよう、意識づけを継続して行う必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・ 学校の工夫には頭が下がります。
- ・ 学校行事として生徒会や児童会を中心として取り組んだり個人や学級くらいの規模で取り組んだり、主体を多様化していろいろな形で参加してほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(2) 他者への思いやりや自尊感情の育成
事業内容	② 異年齢交流活動事業の推進

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

< 子ども会活動 >

1. 町補助金

年間495,000円

2. 加入者数

幼児：21名（昨対比▲9名）小学生：132名（同▲24名）中学生11名（同+1名）
育成者：132名（同▲23名）合計：296名（同▲55名）

3. 単位子ども会数

8単会（昨年度より増減なし）

4. 町子連 異年齢交流活動実施事業

令和2年	6月21日（日）	ニューソフトバレーボール大会	…	中止
令和2年	6月28日（日）	田植え体験教室	…	中止
令和2年	7月下旬	デイ、一泊キャンプ	…	中止
令和2年	9月20日（日）	星空展望会1日目（宇小地区）	…	48名
令和2年	9月21日（月）	星空展望会2日目（北小地区）	…	84名
令和2年	10月18日（日）	稲刈り体験教室	…	中止
令和2年	10月31日（土）	太鼓台運行事業	…	中止
令和2年	11月28日（日）	秋のスポーツ大会	…	66名
令和2年	12月下旬	もちつき大会	…	中止
令和3年	1月30日（土）	星空展望会（宇小地区リベンジ）	…	31名
令和3年	2月28日（日）	わくわくイベント「逃走中」	…	52名
令和3年	3月7日（日）	卒業イベント「野外体験学習」	…	12名

計293名

目標達成に向けた今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な活動アピールの場を設けられなかったこともあり、会員数は減少した。上半期については、事業が軒並み中止となり、感染状況が落ち着いた9月に対策を十分に講じたうえで開催した星空展望会は、初めての試みであったが好評であった。下半期は、感染症対策をとり安全が確保できると判断した事業については開催することができた。本年度は今まで通りの運営が難しい年であったが、事業の見直しができ新しいイベントを開催できたことはポジティブに捉え、次年度に活かしたい。感染症対策は継続してイベントを開催していくことになるであろうが、上手く向き合いながら会員数確保に努めていきたい。

【学識経験者の意見】

・よい取り組みだと思うが、コロナ後の様子を見る必要があるのではないか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(3) 家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり
事業内容	① 家庭教育支援体制づくり並びに学習機会の拡充

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 学習機会の効果的な提供 就学時健康診断や保護者会、参観日など、多くの保護者が集まる機会を活用した学習機会を作る。
- 宇多津幼稚園 ・10/11 「ファミリープレイデー」運動遊び 参加者：142名
講師：阿部武矩 先生
- ・2/5 親子リトミック 参加者：138名
講師：國友 浩子先生
- ・2/9 「命の出前講座」 参加者：40名
講師：ほっこ助産院 田中幸子先生、鈴木佳奈子先生
- 宇多津北小学校 10/22 「令和3年度入学周知会、家庭教育学級」 参加者：108名
講師：香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課 大藪久美子 先生
- 宇多津中学校 入学周知会（各小学校で開催：1/15宇多津小学校 1/21宇多津北小学校）
（小学校6年生児童と保護者等対象）
講師：さぬきっ子安全安心ネット指導員
（県教育委員会教育長から委嘱された指導員）参加人数140人

目標達成に向けた今後の課題

- ・社会全体で人間関係が希薄になる中、親子の育ちを支える機会が少なくなっている。
- ・園児や小・中学生の親子を対象に学習の機会を通じて、「家庭教育支援」を積極的に進める。
- ・就学時健康診断や保護者会、参観日など多くの親が集まる機会を活用し家庭教育学級を開催する。
- ・地域社会で人間関係が希薄になっている中、親子の育ちを支える機会が少なくなっているため、学習の機会を通じて家庭の教育力の向上を図っていく。

【学識経験者の意見】

- ・各取り組みにどのような効果があったのかを教えてください。
- ・入学周知会は家庭教育支援の機会ではなく、小・中・幼・小の連携の場ととらえるのではないかと。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(3) 家庭教育活動の推進並びに支援体制づくり
事業内容	②家庭教育力の向上 ③「家庭の日」(毎月第3日曜日)の推進

令和2年度実施内容
 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

家庭を取り巻く社会環境の変化により家庭教育を社会全体で支えていくことの重要性が高まっている。家庭教育力の向上を図るため、家庭や家庭教育の重要性への理解を深める啓発活動を通して推進していく。

1. 「家庭教育啓発月間」の啓発

町広報誌7月号にて家庭教育啓発月間(7月1日～8月31日)を掲載。

2. 「家庭の日」の推進

①家庭の日(毎月第三日曜日)に合わせて、情報メールの送信。

②家庭の日の作品募集・作品展の開催

日程: 11月25日～12月1日(宇多津小学校)

12月3日～12月9日(宇多津北小学校・宇多津中学校)

場所: うたづ海ホテル

作品: 宇多津小学校児童作品(162点)

宇多津北小学校児童作品(65点)

宇多津中学校生徒作品(6点)

目標達成に向けた今後の課題

- ・家庭教育を支援するため、個々の家庭の自主性を促せるような啓発、情報提供を行う。
- ・社会全体で子どもの育ちを育むため、地域の教育力の向上を図る地域活動の推進及び啓発活動を行う。

【学識経験者の意見】

- ・内容について想像しにくい。きつとうまくいったのだと思うが、参加者の「声」などを知りたい。
- ・町広報誌、作品展を通して啓発活動を継続してほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(4) 人権尊重の意識を養う人権・同和教育の推進
事業内容	① 研修機会の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- ・5月 香川県人権・同和教育研究協議会<紙上開催>
坂出綾歌企業人権・同和教育推進協議会の開催する研修会に参加
- ・7月 第66回四国地区人権教育研究大会に参加(紙上報告)
- ・8月 「同和問題啓発強調月間」に宇多津町人権・同和教育推進協議会総会開催 40名
<研修会中止>を実施した。
- ・10月 香川県人権・同和教育研究大会<紙上報告>
- ・11月 第72回全国人権・同和教育研究大会(延期)
香川県 人権・同和問題Web講演会(オンライン講座)

目標達成に向けた今後の課題

人権に関する理解を深め、人権意識の高揚のため、人権研修を開催する。
新たな人権課題に対応できる、また多様性社会に適応できる研修内容を検討する。

1. 啓発対象者について

現在行っている研修会の参加者は、教育委員、人権擁護委員を中心とした各種委員
など、それぞれの指導的な立場の方に参加いただき、啓発活動にも取り組んでいる。
コロナウィルス感染症より中止。今後の運営について検討が必要である。

2. 研修の題材について

宇多津町人権・同和教育推進協議会総会研修会

今後とも、人権意識を高める啓発内容を精査して研修会などを開催していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・研修会の内容が知りたい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(4) 人権尊重の意識を養う人権・同和教育の推進
事業内容	② 広報・啓発活動の充実

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

○ 人権作品展の開催

1. 内容

宇多津町立の保育所・幼稚園・小学校・中学校においては人権尊重の教育を推進しており、その学習成果の一端を展示し、人権尊重への認識を深めるとともに、住民への人権尊重の啓発を行う。

2. 出品者

宇多津町立保育所・幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒

3. 出品物

ポスター、標語、習字、作文、詩、その他軸に貼れるもの

4. 人権展

●人権作品展・・・期間：9月11日(金)～10月1日(木)

会場：ユープラザうたづ エントランスホール

広報・周知：広報9月号において、開催に関する記事を掲載。

●「私の考えを語る会」人権展・・・ 中止

○『人権・同和教育だより』の作成

1. 内容

世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」とし、毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日～12月10日)を「人権週間」と定めている。

この人権週間にあわせて、坂出市、綾川町、宇多津町では、地域で人権尊重の認識を深めるためにパンフレットを作成している。

○今回の記事の担当 部落差別の解消の推進に関する法律について・・・坂出市
職場におけるハラスメント防止対策の強化・・・綾川町
NO コロナハラスメント・・・宇多津町

○教職員の研修

1. 内容

町(住民生活課)主催の現地研修(11月19日)に、新採教職員、若年教職員等が町職員と一緒に参加し、個々の人権意識の向上を図った。

目標達成に向けた今後の課題

- ・個々の人権意識向上のために、若年教職員はもちろんのこと、管理職も一緒に現地研修に参加してはどうか。
- ・コロナハラスメントについて、児童生徒や保護者に何らかの方法で啓発をしていきたい。

【学識経験者の意見】

子どもたちが主体的に参加する形がよい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(5) 宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進
事業内容	① 地域の伝統文化を学習する機会の充実 ～成人式～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 日 時：令和3年1月10日（日） 13：30～14：00
2. 開催場所：ユープラザうたづ
3. 対象者：平成12年4月2日～平成13年4月1日生まれの男性116名、女性143名
4. 参加人数：男性79名（昨対比▲4名）、女性92名（+43名） 計171名
5. 内 容：町長式辞、来賓祝辞、成人代表誓いのことば、恩師の先生方からメッセージ動画
6. 費 用：634,870円（記念品代316,800円、記念写真代170,280円、会場借上料99,790円、いけばな展示委託48,000円）
7. 実行委員会：8月15日より、計5回実施。
 - 担当者役割分担
 - ・司会（式典等の司会）
 - ・誓いのことば（謝辞）
 - ・受付（資料の封入、受付・配布、来賓へ花をつける）
 - ・広報原稿（2月号広報の原稿）
 - ・アトラクション（準備・片付け・操作）
 - ・パンフレット（表紙のデザイン）
 - アトラクション内容
 - ・恩師ビデオメッセージ
 - 記念品内容
 - ・三色ボールペン

目標達成に向けた今後の課題

1. 参加率について

本年度の参加率は66%（昨対比+7%）と、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮すると高い出席率であったように思える。中止・延期対応する自治体もあった中で宇多津町は開催したが、感染症対策を十分に講じたこともあり無事に終えることができた。参加者からも開催したことについて、感謝の言葉を頂戴し満足度が高かったことが伺えた。

新成人による実行委員会を立ち上げることで、友人への声掛けなどから高い出席率を期待できることから、今後も継続して募集していきたい。
2. アトラクションの選定

恩師からのメッセージ動画は、新成人が担当した。新成人が、自ら各恩師のもとへ足を運び、撮影協力の依頼することで先生方も快く出演して下さった。努力の末、当日は動画に恩師が映る度に、懐かしむ表情を浮かべていた。今後も、新成人の要望に沿った内容を実現できるようサポートしていきたい。
3. 運営

成人式を新成人にとって自立するための一つの節目とし、町の出身者として郷土愛を育むため、より自主的な運営を図りたい。

【学識経験者の意見】

- ・県内のモデルとなるように期待している。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(5) 宇多津を誇りに思う心を育成する教育の推進
事業内容	① 地域の伝統文化を学習する機会の充実 ～宇多津検定～

令和2年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 日時	令和2年12月24日(木)
2. 場所	宇多津中学校各教室
3. 対象者	宇多津中学校1, 2年生 322名(1年生165名、2年生157名 前年対比16名増)
4. 合格者	43名(1級:3名、2級:12名、3級:28名) 合格率13.3% 前回合格者49名 平均点53.0点(1年生:51.8点、2年生:54.4点) 前回54.3点
5. 出題範囲	町の成り立ち、古街関連 産業 観光関連、おひなさん 町の歴史、祭り関連、文化財 宇多津町出身者
6. 結果	試験範囲:検定本全体とすべき3.1% 広くすべき1.7% ちょうどよい52.4%、 もっと狭くするべき42.7% 問題数:多い28.7% ちょうどよい65.0% 少ない6.3% 難易度:難しい59.1% 普通39.5% 易しい1.4%

目標達成に向けた今後の課題	
1 実施の時期	本来の目的においては全生徒の受験が望ましいが、3年生は高校入試の直前となるため、受験対象外としている。
2 出題範囲について	予習帳を活用することで、特定の分野において知識を得ることができている。 検定本全体では範囲が広いため、出題範囲を限定して周知している。準備には朝読書の時間を1週間程度使用し、熱心に勉強する子は本を持ち帰り、家庭でも学習している。 勉強期間が短い、範囲が広い等の意見もあるので開催期間や出題範囲の削減をしてもよいと考える。
3 目的の再確認と情報の更新	地元の歴史・文化を知ると、郷土をより愛することができる。他市町がご当地検定を取りやめていく中、現在の検定本の見直しや、対象者を小学生まで拡大すること(小学校用検定本の作成も含めて)の検討、インターネットでの検定実施を導入することなど、本町においても総合的な面から検討していく必要がある。

【学識経験者の意見】
<ul style="list-style-type: none"> ・センスの高い取り組みだと考える。 ・実施時期と内容を検討してはどうか。現在の内容はむしろ小学生向きではないか。活性化の手立てとして実施対象も含めて全体の再検討が必要ではないか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) その他
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～いじめ防止等対策委員会～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

宇多津町いじめ防止条例に基づき、いじめ防止対策等委員会を開催

1. 宇多津町いじめ防止等対策委員会の開催 令和2年9月24日

(1) 委員の構成 委員4名

(2) 内容

①小中学校のいじめ防止の取り組みと現状について

②各委員から

- ・件数が多くても1つ1つの対応より、上がってきた案件をを整理して対応することが必要である。
- ・いじめられているサインが見えない子どもが多くなってきているので、SCやSSWの存在が重要である。
- ・各学校において、いじめられていることを発信できる体制の整備が必要である。

2. いじめの発生状況 (平成30年度、令和元年度、令和2年度)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	内 訳 (人)		
宇多津小学校	9	1	89	1年 26 4年 10	2年 22 5年 11	3年 8 6年 12
宇多津北小学校	5	5	41	1年 17 4年 8	2年 6 5年 5	3年 4 6年 1
宇多津中学校	29	23	16	1年 8	2年 5	3年 3
	43	29	146			

※令和2年度は、少しでも被害者が苦痛を感じたり、つらい思いをした時には全て件数の中に入れていく。

目標達成に向けた今後の課題

- ・事務局からの報告で時間が終了しているので、専門的な立場の委員（SSW、SC等）から近隣市町の現状や事例等の話を聞く時間を十分確保する必要がある。
- ・事務局よりご指導いただいたことを校園長会等で伝え、各学校で今後の対応に活かす。

【学識経験者の意見】

- ・小学校でのいじめの増加が著しいが、その原因についての考察も十分にしておくべき。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～サポートチーム連携協議会～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 宇多津町サポートチーム連絡協議会について

宇多津町立学校に通学する児童又は生徒の問題行動が発生した場合、学校、教育委員会及びその他関係機関が協力し、解決に向けた具体的な支援策の検討及び実施の適切な対応を図るためにネットワークシステム(連携協議会)を構成する。

2. 令和2年度「宇多津町サポートチーム連携協議会」の開催

(1)日時: 令和2年8月3日(木) 11:00～12:00

(2)場所: 宇多津保健センター 4階大会議室

(3)参加構成機関: 坂出警察署生活安全課、宇多津交番、町少年育成センター、主任児童委員
町保健福祉課相談支援センター、各小・中学校、スクールソーシャルワーカー
町PTA連絡協議会、町サポート指導員、町教育委員会事務局 参加人数 19人

(4)内容(情報交換及び成果と課題)

- ・学校……小学校: 生徒指導状況、生徒指導上の課題(長欠児童、虐待・ネグレクト、いじめ)
中学校: 生徒指導状況報告(全体として、問題行動、不登校の状況、交通事故の状況)
- ・坂出警察署(宇多津交番)……坂出署管内の非行少年検挙補導状況
(刑法犯少年、窃盗犯少年、万引き少年、不良行為少年)
- ・少年育成センター……宇多津町少年育成センター活動年間集計
(街頭補導状況、相談状況、環境浄化活動、不審者情報)
- ・主任児童委員……かかわっている町内の子どもについて
- ・町PTA連絡協議会……最近の子どもの現状

目標達成に向けた今後の課題

- ・学校、町教育委員会及び関係機関が集まり、情報交換や意見交換ができる機会はなかなかないので、各学校や近隣地区の子どもの現状を十分聞き、共有する必要がある。
- ・学校、PTA、各団体が情報を共有するだけに終わらず、各団体で何ができるかを協議し、連携して対応していくことが重要である。

【学識経験者の意見】

- ・連携がとれている状態だと思います。
- ・上に掲げた今後の課題の達成をめざしてほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～ 宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会 ～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会

1. 児童部会

(1) 児童相談種別件数 (R2) (R元) 206件

養護		障害	非行	育成		その他			計
児童虐待	その他	発達障害	ぐ犯触法	性格行動	不登校	特定妊婦	DV	その他	240
98	62	0	4	9	13	17	19	18	

(2) 虐待への対応 98件 (R元) 72件

(3) 要保護児童対策地域協議会

- ① 実務者会：月1回定例開催し、要保護児童、特定妊婦、DVなどの個別事例について、関係機関多職種に参加で、支援状況などについて情報交換し、課題の共有、役割分担等を行う。
- ② 進行管理会：年2回、上期と下期に分けて、実務者会で検討している事例について、主担当機関で援助方針の確認や見直しを行う。
- ③ 個別ケース検討会 R2 34回 (R元) 15回
児童虐待など要保護児童及び家庭への支援過程において、情報の共有、課題の整理、支援の環境の変化や問題発生など協議が必要と判断された場合、支援している関係機関に集まってもらい個別ケース検討会を開催し、情報の共有、課題の整理、支援の方向性を検討する。
【主たる相談種別】 身体的虐待 心理的虐待 ネグレクト 不登校その他の養護相談

(4) その他の取り組み

- ① 宇多津町教育連携協議会 夏季研修会 コロナ禍のため中止
- ② 児童虐待防止の普及啓発
 - ・虐待防止キャンペーンポスター全戸配布、町内施設、学校等に配布
 - ・オレンジリボンキャンペーンのぼり旗の設置
 - ・11月 児童虐待防止推進月間における啓発

目標達成に向けた今後の課題

1. 本業務について

保健福祉課の相談支援センターが要保護児童対策地域協議会の調整機関として、各機関・団体が参加し、各家庭への支援の仕方やその子どもへの対応について検討する。教育委員会独自の事業ではないが、情報交換、家庭訪問等を連携して行い、学校からケース会の要望があれば、教育委員会も参加して今後の対応について協議する。

2. 今後の課題

協議会で扱う件数が増加している。1件1件の案件において、関連機関が情報を共有し十分連携して対応することにより、案件を徐々に終了に向けて進めていきたい。

【学識経験者の意見】

- ・全国的に増加傾向が強い中、香川県は持ちこたえている様子です。今後とも防止と対応に力を入れてください。
- ・上に掲げた今後の課題の達成をめざしてほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	2 地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり
施策項目	(6) いじめ等問題行動から子どもを守るネットワークの充実
事業内容	① 子どもを守るネットワークの充実 ～ 少年育成センター業務 ～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 巡回指導活動 育成指導員…60名 補導回数/年間…140回 延べ従事数/年間…449人
 新型コロナウイルス感染症対策について、可能な限り感染防止対策を講じながら実施。
 子どもたちへの挨拶や、登下校における見守り活動を中心とした取り組み。

行為名	就学前		小学生		中学生		高校生		大学生		一般		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
道交法違反					14	6	1	1					15	7
校則違反														
たむろ														
ゲームコーナー声かけ			18	10	17		2	6			1	0	38	16
帰宅促し			4	5			1						6	4
下校等声かけ	1	2	752	675	317	255	14	5					1084	937
危険行為 (駐車場での横切り運転) (川で魚とり) (橋の上で寝転ぶ) (左右確認・一旦停止) (横断歩道のわたり方)						2							18	

2. 相談活動	内訳 件数	不登校 10	学校関係 3	進路 2	家族関係 2	精神・発達 2	その他 1	合計 20
---------	----------	-----------	-----------	---------	-----------	------------	----------	----------

3. 環境浄化活動 白ポストの回収については、毎月回収。ポストの老朽化により修繕計画中。
 回収数/年間(町内6基) 本(348) ビデオ(56) DVD(272) 合計(676)

4. 広報・啓発活動 青少年健全育成活動における地域・関係機関と連携

5. 教育支援センター活動 学校や集団生活に復帰できるよう支援することを目的に、様々な体験活動や個別学習を実施している。
 SSWや学校との連携を密にしながら、支援方法を考えている。

目標達成に向けた今後の課題

1. 巡回指導：育成指導員の定年制導入
 現在は本人からの辞退申し出による退任のみだが、退任年齢を定め定年制の導入が必要と思われる。
2. こどもSOS：各小学校（PTA）との連携
 最新情報を共有するため、新年度毎に設置者リストの提供を各小学校へ依頼していく。
3. 教育相談（不登校含む）：教育支援センターとの情報共有
 指導員のスキル向上のため、研修への参加や他市町の教育支援センターとの連携を呼びかけていく。

【学識経験者の意見】

- ・男子の行動にある程度の傾向がみられるので、ケースによっては心理面接も必要だと思う。
- ・退任については、個人の状況によるのではないかと。定年制を一律に導入するのはいかがなものか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進
事業内容	① 研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援 ～ 令和相聞歌 ～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 事業内容

- 令和元年度より四国医療専門学校との連携事業「令和相聞歌実行委員会」を立ち上げ事業を実施。
- 携帯電話やパソコンのメールで「令和相聞歌」を募集。募集期間は9/1～11/11
- 募集チラシは、町内公共施設、学校、県内外報道機関、県内市町教育委員会、県関連機関 県外高校文芸部等に配布。
- 選考：（1次選考）期間内の応募作品の中から選考委員により68作品程度が選ばれる。
（2次選考）一般の方のインターネットによる人気投票の結果を考慮し、選考委員により、最終選考を行った。
最優秀作品1点、優秀作品3点、特別賞10点、四国新聞社賞・四国医療専門学校賞各5点
- 授賞式（HPに選評会配信）
- 交流会 中止
- 除幕式 中止

2. 事業実績

応募数： 令和2年度（第2回） 2,349 （令和相聞歌：応募は一人3作品まで）
平成30年度（第12回） 7,952 令和元年度（第1回） 1,808

3. 補助金

179万円/年 （R2年度は事業内容の変更により11万円返金。）

目標達成に向けた今後の課題

- ・地域の文化に興味・関心をもたせ、文化水準を高める事業を開催する。
 - ・コロナウィルス感染症による影響も考えられることから、実行委員会を早めに開催し、イベント内容等を検討する。
 - ・記念イベントの一つとして、実施した子ども俳句大会を継続する。
 - ・宇多津町民にもっと事業内容を知ってもらい、町民からの応募作品を増やすための工夫する。
- 歌碑の設置について
- ・第11回からは最優秀賞（1基）のみ歌碑を設置する。

【学識経験者の意見】

- ・この企画は大事な文化的活動です。今後も続けてほしい。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の推進
事業内容	① 研修活動等の充実並びに地域の伝統文化の保存・継承活動の支援 ～文化財保護～

令和2年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
1. 文化財保護委員会事業	
(1) 保護委員会の開催について	令和2年8月21日（金）中止 令和3年2月19日（金）
(2) 報告事項・委員研修など	・宇多津町内の文化財について 看板設置について ・西光寺所有の古文書に触れる（中止）
2. 文化財保護協会事業	
(1) 会員数について	県・町会員 30名 町会員3名 計33名
(2) 補助金について（コロナウィルス感染症による事業変更）	年間135,000円 細川頼之研究事業補助金 270,000円 （戻入額158,000円）
(3) 実施事業について	総会（書面決議）、研修会（町内研修、県外研修（徳島））

目標達成に向けた今後の課題	
1. 文化財保護委員会事業について	新規に、文化財保護委員に文化財専門員である県職員の方などに参画していただいたことで、意見をいただき、会の運営に生かしていく。 新規に申請がなかったため、指定文化財の審議には至らなかった。
2. 文化財保護協会事業について	文化財保護協会会員が研修を重ね、宇多津の歴史を会員や一般の聴講者にもわかりやすく説明する。自らが研究し、積極的な活動が見られるものの、会員数は減少傾向にあるため、役員・会員からの声掛けが必要。
3. 文化財の保存・活用について	現在の文化財、そして将来、「文化財」として残していくもの、専門的知識をもった人材によって、検証していくことが今後の文化財行政のカギを握ると考えられる。

【学識経験者の意見】

- ・「見える」ように発信していくことも必要かと思う。
- ・全体的に低調になっているのではないか。地域に根差した活動として宇多津検定と連携し、小・中学生に広げていってもいいのではないか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	① いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供 ～女性セミナー～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

男女共同参画社会に対応した社会作りを目指し、女性の視点から講座を開設・実施する。

1. 年間活動及び参加者数

(1) 郷土料理教室	中止
(2) 交通安全教室	中止
(3) 郷土文化を学ぶ（三豊方面）	中止
(4) 県外研修	中止
(5) 体操教室（2/22）	参加者 16名
(6) 歴史文化を学ぶ	中止

2. 会員人数

51名（R1 75名）

3. 延べ参加人数

16名（R1 133名）

目標達成に向けた今後の課題

1. 企画について

要望による講座を検討しての実施であったが、今年度はコロナウイルス感染対策により行事の中止が相次いだ。今後は出来る講座内容の検討を図る。

2. 会員数・参加者数について

今年度はコロナウイルス感染対策により行事が一部しか開催できなかった。会員数は昨年度より減少している。

女性特有の知識・経験を生かし又、生かせる事業を通じて経験値を上げていける講座などを検討し会員数・参加者数の増加を図る。

【学識経験者の意見】

- ・新型コロナウイルス感染症は仕方ないが、その中で講座が実施できるような工夫も求められる。参加者のリテラシーにもよるが…。
- ・コロナ後の取り組み方が課題となる。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	① いつでも・どこでも学ぶことができる学習機会の提供 ～宇多津大学～

令和2年度実施内容	
目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。	
高齢者が健康で明るく生きがいのある生活が送れるよう、社会参加及び学習の機会を提供する。	
1. 年間活動及び参加者数	
(1) 運動教室	延期
(2) 運動教室 (7/29)	参加者 69名
(2) 身の回りの対策あれこれ (9/16)	参加者 62名
～特殊詐欺・交通事故などの被害防止のために～	
(3) 食べることは生きること (10/15)	参加者 61名
～毎日の食事をたのしむことが元気の源です～	
(5) 町外研修	中止
(6) 相続関係(遺言書の書き方等)	参加者 50名
2. 会員数	
113名 (前年119名)	
3. 行事参加者数	
延べ242名	H30年度 356名
	H31年度 356名

目標達成に向けた今後の課題
1. 講座の企画について 香川県消費生活センターが行う「くらしのセミナー」を中心に計画している。講座一覧より、参加者に希望を伺うことで、関心の高いテーマで事業の実施ができているものとする。今後も老人会と連携し、事業の展開を図る。
2. 会員数・参加者数について 会員数・参加者数ともに減少傾向にある。会員数・参加者数を増加させるべく、企画内容を見直すことで増加を図る。

【学識経験者の意見】

- ・多様な企画が今後必要となると思います。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実
事業内容	② 住民が学んだ成果を住民のために活かす仕組みづくり 「知の循環」

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 生涯学習講座

①講座内容、実施日数・時間、受講者数

- ストレッチ&スロートレーニング 6日(2h/日) 11名
- 宇多津の小さな墓石から日本の大きな歴史が沢山読み取れる 6日(2h/日) 8名
- 水引で小物を作ろう 8日(2h/日) 7名
- <中止> みんなで楽しくスポーツウエルネス吹き矢
- <中止> 和紙工芸
- <中止> 野菜で健康生活を送ろう!

合計3講座 受講者数合計 26名

②募集方法、期間

方法: 4月広報へ講座要項及び申込用紙を挟み込み。事務局窓口にて申込受付。
 期間: 4月6日～4月17日 2週間

2. 香川短期大学との連携事業 カルチャー講座の開催。(カルチャー講座委託料 70,000円/年)

①講座内容、実施日数・時間、受講者延べ人数

合計4講座 延べ受講者数合計65名

- プログラミングに挑戦 ブロックリーゲームを体験しよう 2日(2h/日)13名
- 大人が愉しむ絵本講座～絵本の絵を詠む～ 1日(2h/日)25名
- 親子料理教室(郷土料理) 1日(2.5h/日)24名
- 認知症サポーター養成講座 1日(2h/日) 3名
- <中止>ミニクルクルレインボーを作ろう 1日(2h/日)0名

②募集方法 香川短期大学のHPに記載、町広報紙にて案内した。

目標達成に向けた今後の課題

○講座数・内容・回数の検討

受講生を対象としたアンケート調査等を参考に、公民館運営審議会等において、ニーズに合った講座内容の検討を十分に行う。

体面による講座形式のため、施設の開館状況により開催の是非が問われた。

コロナウイルス感染症対策の為、使用施設の閉館などあり、開催方法・場所など課題の検討。

○受講後の支援

講座終了後は受講生が学んだことを活用できる自発的なサークル活動の結成支援を行う。

活動によっては、文化展などで出展、生涯にわたって学べる、生きがいづくりに繋げる。

今年度コロナウイルス感染対策により、講師の都合も相まって今年度はコロナウイルス感染症により、半分の講座しか開講できなかった。

○大学との連携事業

大学の持つ得意分野を生かした講座の開催を促し、大学との連携事業を通じて地域力の向上に努める。

【学識経験者の意見】

- ・地域の大学等との共同は大事です。今後も続けてください。
- ・コロナ後の対応の仕方が課題となる。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	① 指導者養成並びに活動支援体制づくり ～大松杯バレーボール大会～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

【第27回大松杯バレーボール大会】

令和2年度は全国的な新型コロナウイルス感染症拡大傾向にあることから、各県代表チームの選出が困難であること、本大会への参加関係者への健康を配慮し、大会の中止を決定した。

1. 運営委員会：大会中止のため、会議は中止とする。
2. 常任委員会：書面評決の実施
3. 実行委員会総会：書面評決の実施

目標達成に向けた今後の課題

- ・新型コロナウイルスの感染症拡大による大会の開催の検討
 県外からの参加になるので、開催の有無の判断を状況を見つつしていく。また、大会中止が続くことで次回の開催時の運営が心配される。
- ・運営内容の検討
 競技役員の高齢化により運営が困難になっている点が見られる。他大会の事例を確認し、競技役員の負担軽減につながるものがあれば検討する。
- ・競技役員の確保
 現在の競技役員からの紹介を中心に、新たな競技役員の確保に努める。

【学識経験者の意見】

- ・今は忍耐の時ですが、何かそれでも発信できることを期待しています。
- ・今後の課題として上記に掲げているとおりだと思う。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	① 指導者養成並びに活動支援体制づくり ～激励制度～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- 趣 旨 : 宇多津町におけるスポーツ及び文化芸能の振興を図るため、大会に参加する個人または団体に激励金を交付する。
- 要項改正 : 従来は奨励金としてスポーツ部門にのみ交付していたが、生涯学習課においては文化・芸能部門での活動も、生涯学習や社会教育の一環として住民に対し奨励していることから、文化・芸能部門の該当者にも同等な支援をするようにした。その際奨励金を激励金に改め、さらに個人及び団体への激励金年間限度額を明確にした。平成24年度4月より実施、平成27年度には、旅費の補助として交付しているという考え方により、義務教育課程への加算は取り消した。

3. 交付人数 : 【以下実績】

平成25年度実績:	スポーツ部門	165名	文化芸術部門	4名	総額	1,007,000円
平成26年度実績:	スポーツ部門	218名	文化芸術部門	0名	総額	1,278,000円
平成27年度実績:	スポーツ部門	142名	文化芸術部門	0名	総額	550,000円
平成28年度実績:	スポーツ部門	201名	文化芸術部門	0名	総額	769,000円
平成29年度実績:	スポーツ部門	109名	文化芸術部門	3名	総額	676,000円
平成30年度実績:	スポーツ部門	97名	文化芸術部門	4名	総額	725,000円
平成31年度実績:	スポーツ部門	111名	文化芸術部門	14名	総額	726,000円
令和2年度実績:	スポーツ部門	9名	文化芸術部門	1名	総額	74,000円

4. 交付件数 : 【以下実績】

平成25年42件	平成26年43件	平成27年37件	平成28年50件
平成29年51件	平成30年51件	令和元年79件	令和2年12件

目標達成に向けた今後の課題

○周知方法

各学校に協力していただき、大会に出場する児童、生徒の保護者に対して周知を行う。また、町HP・広報誌等に記載する。

○祝い垂れ幕の件数について

全国大会に出場する個人・団体には祝い垂れ幕を作成しているが、作成件数が多くなる場合は、補正予算等の予算対策を講じなければならないため、裏面を使用し予算を抑える。

【学識経験者の意見】

- ・氏名が記されていて、それが気にはなっています。文化的によいとは思っています。
- ・「～金」ではなく「～賞」のような形にする方が広報しやすいのではないか。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	② スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実 ～スポーツの推進～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

町民の健康増進、体力向上を目的に、スポーツ・レクリエーション事業を企画し開催する。開催後も、教室等で学んだ運動を自主的に継続して行うことができるようになることが目標。事業については、町スポーツ推進委員（男性10名・女性5名）が中心となって指導する。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼ全ての事業が中止となった。

○指導・協力事業について

町：○健康ウォーク … 中止

○「ニュースポーツを体験しよう」&町民体カテスト … 中止

○第69回宇多津町子どもロードレース大会協力

県：○スポーツ推進委員研修会 … 中止

四国：○四国スポーツ推進委員研修会 … 中止

○スポーツ推進委員任期について

令和2年度末で任期満了。次期委員について14名再任、1名新任で委嘱予定。

目標達成に向けた今後の課題

- ・推進委員の世代交代に向け、来年度より40代前半の委員1名に委嘱予定。(70代委員退任)
また組織内で委員長交代を予定しており、次世代委員のリーダーシップの向上を図る。
- ・ニュースポーツ体験について、この取組を契機に、サークルや団体結成に繋げ、生涯スポーツの普及に努める。

【学識経験者の意見】

- ・来年こそはぜひ実施したいものです。
- ・コロナ後にどう対応していくかが課題である。

令和2年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

施策目標	3 活力ある地域コミュニティの形成
施策項目	(3) スポーツ・レクリエーション活動の充実
事業内容	② スポーツ・レクリエーション活動を気軽に楽しむ場の充実 ～ 子どもロードレース ～

令和2年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

平成27年度から開催日を1月の第二土曜日に変更。申込方法も事前申込のみとした。
今回の参加申込みは感染症対策のため、町内小学校児童のみを対象とした
参加人数は76名（昨年度町内児童67名）宇多津小学校30名、宇多津北小学校46名であった。

《 第69回宇多津子どもロードレース大会 》

日 時 令和3年1月9日（土）午前8時～

会 場 宇多津小学校グラウンド

参加人数 男 47人 女 29人 合計 76人

運営協力者 スポーツ推進委員5人、体協スポーツ団体部員8人、
役場職員11人、青年会2人

運 営 費 町補助金 324,500円

目標達成に向けた今後の課題

○運営内容の検討

- ・体協陸上部への協力体制を充実していく。
- ・多くの児童に参加してもらうための工夫を検討していく。
- ・コロナ対策で町内児童の参加者は増加したが、他市町からの参加希望も多く連絡があったので感染症対策を講じながら通常開催を目指す。

【学識経験者の意見】

- ・実施できて安堵しました。
- ・引き続き継続してほしい。